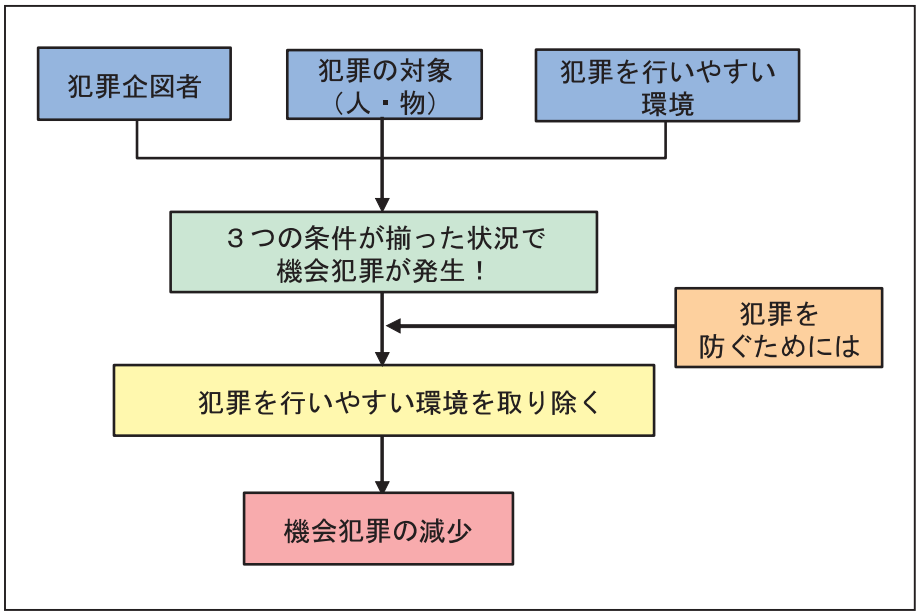
# １　防犯のまちづくりの基本的な考え方

## （１）　機会犯罪の発生要素

まちの構造やコミュニティと関係した犯罪は「機会犯罪」と呼ばれ、ふとしたはずみで発生する犯罪である。これは、「犯罪企図者」、「犯罪の対象（人・物）」、「犯罪を行いやすい環境」の３つの条件が同時に重なった状況で、機会があれば発生する犯罪であり、身近で頻繁に発生している街頭犯罪は、この３つの条件がほとんど当てはまる。

平成 17 年度の埼玉県の犯罪状況を見ると、街頭犯罪に分類される路上強盗・ひったくり・自販機ねらい・オートバイ盗・自転車盗・自動車盗・車上ねらいについては、刑法犯認知件数に占める割合が約 46%を占める。さらに、街頭犯罪に侵入盗を加えた機会犯罪では、刑法犯認知件数に占める割合が約 58%を占めており、犯罪の過半数となっている。

「犯罪を行いやすい環境」を取り除くことにより、これらの街頭犯罪を含め、機会犯罪を減少させることができる（図－１）。



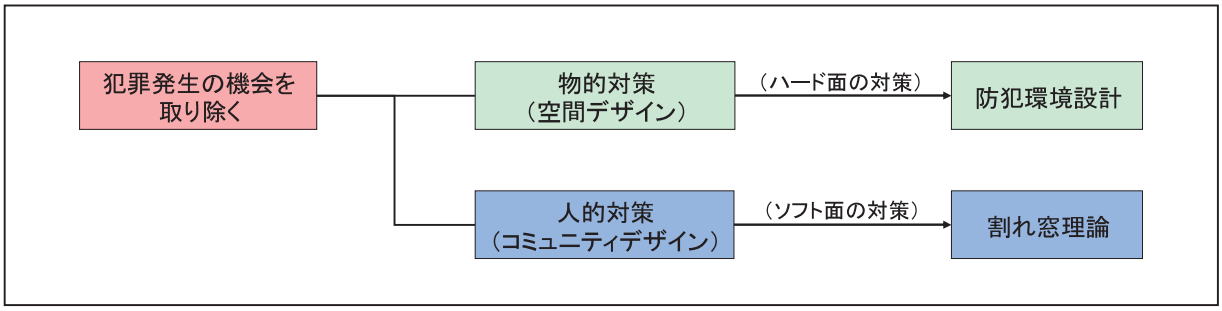

図－１：機会犯罪の発生要素

## （２）　「防犯環境設計」と「割れ窓理論」

「犯罪発生の機会を取り除く」方法は、物的対策（空間デザイン）と人的対策（コミュニティデザイン）に大別される（図－２）。物的対策は、ハード面の対策を主体とした「防犯環境設計」（Crime Prevention though Environmental Design ： ＣＰＴＥＤ）の手法によって行われる。欧米では、1960 年代中頃から、都市の建築物・道路・公園等、犯罪が頻発する場所・犯行の機会を提供している施設に関し、研究・調査が重ねられてきた。その結果、物理的環境を適切に設計・管理することにより、犯罪が発生する機会を取り除く考え方として防犯環境設計が提唱されている。

それに対して、人的対策（コミュニティデザイン）には、ソフト面での対策である「割れ窓理

論」(Broken Windows Theory) が大きな影響を与えている。ニューヨーク市では、この割れ窓理論に基づき、ルドルフ・ジュリアーニ市長を中心に、落書きなどの秩序違反対策を展開した結果、犯罪が半減している。



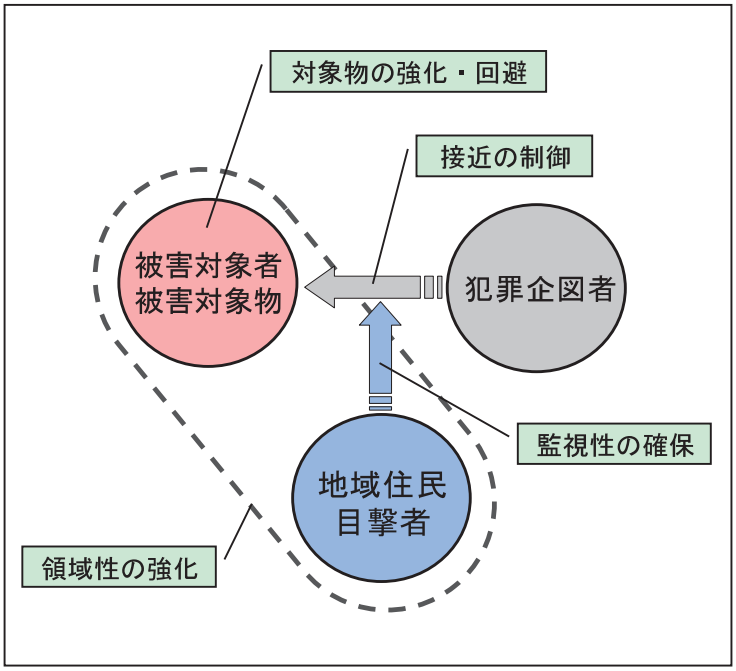

図－２：「防犯環境設計」と「割れ窓理論」

### （３）　防犯環境設計

防犯環境設計は①領域性の強化、②監視性の確保、③接近の制御（アクセスコントロール）、④対象物の強化・回避（ターゲットハードニング）の４つの方針にまとめられる（図－３）。

道路・公園・建築物等、犯罪が発生する場所や施設を設計・管理する際、これら４つの方針に、対応策を当てはめて考えることで、対応策が防犯上、有効かどうか判断できる。

これらの４つの方針について説明する。




図－３：「防犯環境設計」の概念

① 領域性の強化

平易な言葉を用いると、「なわばり意識の強化」となる。自分たちの生活の場が荒らされないように、よその集団の侵入を許さない地域をつくることである。言い換えると、犯罪者にとって、物理的・心理的に「入りにくい」環境をつくることである。

② 監視性の確保

普段からその場所で活動している人が、他の人に対して、自然と目を配っていられるようにすることである。言い換えると、周囲から犯罪者が物理的・心理的に「見えやすい」環境

をつくることである。

③ **接近の制御（アクセスコントロール）**

その場所の来訪者を、正当な用事がある人だけに制限することである。また、犯罪企図者が被害対象者（物）に、物理的に「近づきにくい」環境をつくることである。

④ **対象物の強化・回避（ターゲットハードニング）**

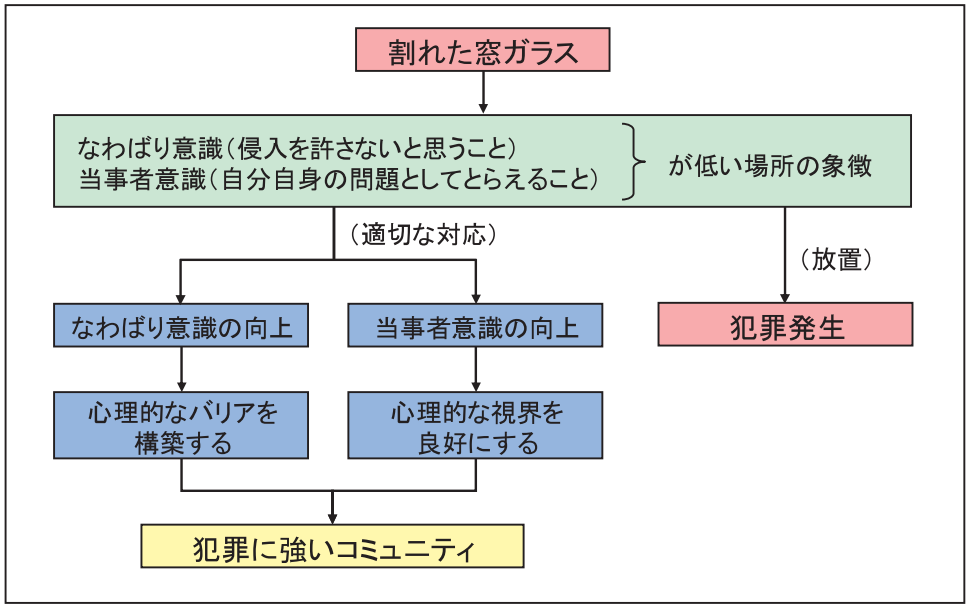
被害対象者（物）を物理的に強くすることである。なお、被害対象者（物）を犯罪発生が懸念される環境から除去することも含まれる。

### （４） 割れ窓理論

小さな秩序違反行為が野放しにされると、それが「だれも秩序維持に関心を払っていない」というサインとなり、犯罪が起こりやすい環境がつくり出され軽犯罪が発生する。地域の治安が悪くなると、秩序維持ができなくなりさらに環境が悪化し、凶悪犯罪も発生するようになる。そのため、犯罪が発生しにくい環境を守るためには、地域で生活する一人ひとりが小さな秩序違反を見逃さないことが重要となる。

割れた窓ガラスが放置されているような場所では、「なわばり意識（侵入を許さないと思うこと）」が感じられないので、犯罪者は周囲から関心を払われることなく容易に立ち入ることができる。さらに、当事者意識（自分自身の問題としてとらえること）も感じられないので、犯罪者は「見つからないだろう」「見つかっても通報されないだろう」「犯行は制止されないだろう」と思い、犯罪を行う。

防犯環境設計が犯罪対象者（物）への接近を妨げる物理的なバリアを築こうとするのに対して、割れ窓理論は心理的なバリアを築こうとするものである。また、防犯環境設計が見通しを確保し、物理的な視界を良好にしようとするのに対して、割れ窓理論は、当事者意識を高めることによって、心理的な視界を良好にしようとするものである（図－４）。




**図－４：「割れ窓理論」の考え方**